

「剣連だより」
能登半島地震からの復興に向けて



(一財)石川県剣道連盟
会長 南 信廣

1 はじめに

令和6年元日に発生した「能登半島地震」は大きな地殻変動を引き起こし、海底隆起、津波、大規模火災、道路網寸断や土砂崩落など、想像を絶する大災害となった。当連盟では1月下旬、「支援特別委員会」を設置した。復興に向けてようやく動き出した矢先の同年9月、今度は「奥能登豪雨災害」が追い打ちをかける二重災害となり、のどかな能登の風景は一変した。この災害で、家屋の全壊や半壊等で避難生活を余儀なくされた会員は相当数あったが、人的被害はなかった。

2 剣道再開の状況

能登地区の傘下団体の活動状況は、珠洲市剣道連盟は、震源地に最も近く被害は甚大で、現在も車庫等で生活している会員もおり、活動の目処は全く立っていない。輪島市及び鳳珠郡（能登町・穴水町）の両剣道連盟も被害は大きかったが、昨夏から細々と稽古は再開されている。七尾市剣道連盟は、武道館は使用不能で現在も市内中学校の武道場を借り、剣道・居合道稽古している状況である。

ただ、地震後に珠洲警察署に赴任した、当連盟副専務理事の杉本卓也氏が汗してこれら能登地区の剣道再開に果たした役割は極めて大きい。

3 義援金等の使い道

(公財)全日本剣道連盟や各都道府県剣道連盟等多くの皆様から、1500万円余の見舞金・義援金を頂戴し、その他、剣道具や竹刀の寄贈も受けた。義援金等の配分については、「義援金配分委員会」を設置し、理事会の議決等を経て、昨年9月末に配布完了した。主要い道は次のとおり。

- (1)被害会員への見舞金
- (2)剣道の再開・復興に係る事業費
- (3)被災団体及び被災会員の会費
- (4)3年間免除の充当費

4 加盟団体事務局活動の補助費

4 剣道具の寄贈

珠洲市剣道連盟会員の剣道錬士



寄贈された剣道具を受け取る石田尚史氏

六段・石田尚史氏は、奥能登豪雨災害により、家財や剣道具等一切が泥に埋もれ喪失した。全剣連から、称号・段位の証書は、速やかに再発行され、昨年12月には、立派な剣道具や剣道着・袴・剣道具入れ（5組分）を寄贈いただいた。石田会員は「震災で絶望し、豪雨災害には心が折れてしまった。目標を失いかけていた時に、剣道界から温かい励ましを受けた。今後は剣道を心の拠り所とし、いずれば七段を目指したい」と話し、感謝の念がいつぱいの様子であった。

5 能登半島地震復興祈念事業等

(1)日本代表選手による剣道授業
昨年11月、中能登町中学校で、能登の少年少女剣士を元気づけようと、第19回世界剣道選手権大会日本代表選手3名（土谷有輝選手、星子啓太選手、近藤美洸選手）を招聘し、剣道授業を行った。参加剣士は、選手の生の一挙手一投足に耳目を凝らし、明るく元気に竹刀を振り、指導稽古や記念撮影は一生忘れられない一日になったことと思う。

(2)第71回全日本東西対抗剣道大会
本年9月7日、「いしかわ総合スポーツセンター」で開催予定の、東西対抗剣道大会は、全剣連の承諾を得て「令和6年能登半島地震・奥能登豪雨災害復興祈念」と銘打って開催することとなった。主管



日本代表選手による剣道授業

6 結びに

地震発生直後から、国の内外を問わず多くの剣友の皆様からご心配や温かい励ましのお言葉をいただき、大いに勇気付けられ本当に有難かった。当連盟としては、剣道界への感謝と期待に応えるべく、被災地、被災会員に寄り添いながら、「能登を元気に。共に前へ」を合言葉に剣道の復興に向け、更に取り組みを推進して参りたい。

皆様には、このたびの多大なるご支援に対し、心より厚く御礼を申し上げますとともに、今後とも何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。